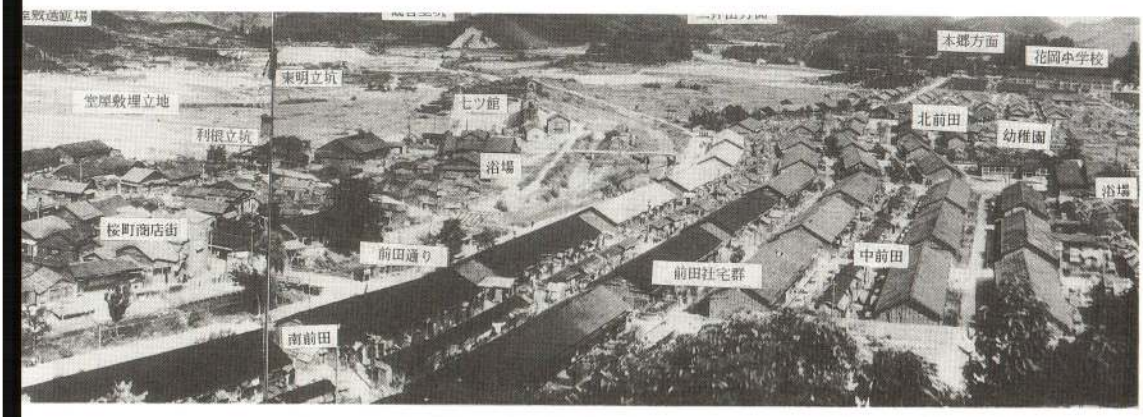

花岡鉱山百年の回顧

十一月十六日、花岡鉱業株式会社（本社・花岡町字堤沢四十二、橋口博宣社長）は松峰、深沢鉱山が黒鉱資源の枯渇と昭和六十年以降の円高、非鉄金属市況の低迷などにより来年三月をもって操業を休止することを発表しました。

花岡鉱業は昭和六十一年に同和鉱業から分離独立して、松峰、深沢、餌釣鉱山を経営していましたが、平成三年に餌釣鉱山が閉山。続いてこのたびの松峰、深沢両鉱山の操業休止という事態を迎えました。

全国の脚光浴びた 花岡鉱山

花岡鉱山の歴史をさかのぼってみると、明治十八年に花岡の浅利藤松らによって堤沢、観音堂の土鉱発見に始まり、鉱主が横山勇喜、石田兼吉、小林清一郎と替わり、大正四年に藤田組の経営に移り、翌年に堂屋敷鉱床が発見されました。

それに続いて神山鉱床、七館鉱床、観音堂鉱床、稲荷沢鉱床などの大鉱床が次々と発見され、その後昭和二十一年に同和鉱業株式会社の経営を経て次第に盛況となり、昭和三十、四十年代には北鹿地方諸鉱山に黒鉱ブームが巻き起こりました。

黒鉱ブームの波が押し寄せる中で、同和鉱業は昭和三十八年に松峰大鉱床を発見。銅品位は二パーセントで、昭和四十一年九月段階での推定埋蔵量約三千万トンという日本最大の黒鉱鉱床の確認によって全国鉱業界の脚光を浴びました。

しかし、昭和四十八年のオイルショックによる不況、円高等による鉱産物価格の暴落など不況の波は鉱山業界へも及び、昭和六十一年に花岡鉱業の分離独立として引き継がれ再スタートしましたが、このたびの操業休止という事態は避けられず、今、一世紀以上にわたるヤマの歴史を閉じようとしています。

懐かしい 従業員長屋

花岡地区は鉱山の街として栄え、鉱山の盛衰と共に歩んできました。

花岡町は昭和三十年に矢立村と合併して花矢町となり、四十二年には大館市と花矢町が合併しました。旧花岡町の人口の推移を見てみると、昭和三十四年に一万二千人を数えたこともあり、鉱山全盛期には前田地区などに鉱山従業員の長屋がたくさん建ち並び、桜町などの商店街は鉱山の恩恵を受けにぎわいましたが、その長屋もすでに解体されその姿を見ることができません。

長屋風景（前田）

花岡鉱山の変遷

明治18年	浅利藤松・藤盛常吉らが堤沢・観音堂等の土鉱発見
大正5年	堂屋敷鉱床発見
昭和21年	同和鉱業(株)に社名変更
〃 24年	堤沢露天掘り着手
〃 38年	松峰鉱床確認
〃 41年	松峰鉱山操業開始
〃 44年	深沢鉱床発見
〃 47年	堂屋敷坑閉山
〃 48年	深沢鉱山操業開始
〃 51年	餌釣鉱床発見
〃 61年	花岡鉱業分離独立別会社化
平成3年	餌釣鉱山閉山